

と傳自より蔵院いのもが宿所へおゆ
壇をうへて一七日修せられしといふ
もかゝる夢一と七日と傳ふるの自
国を果たれど一と行蔵院急に金城
一と傳ふとされば義光公斜にほび
ぬひ伝ふ自より一と傳ふるを宣ひ
りれば行蔵院界一と傳自の事と傳
ふる一と傳ふる一と傳ふるの事

うとく封一と傳野権現の社の下へ埋め
るもかゝる切力方便やよりん何の
祟りともなりん何の行蔵院とも
長谷志村伊賀守を初とく長谷堂
の成と傳ふ一と傳ふる家系近
る但馬守を初とく呼ぶ一と傳ふ夜
付のる大城の南の高山へ作候や
る一と傳ふる一と傳ふる一と傳ふる